

令和3年度 第10回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2022年（令和4年）3月17日（木）午後6時1分～午後7時44分

2 場所

ウェブ開催

3 出席者

(1) 委員 12人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、樋口委員、阿部委員、木村委員、細沼委員、
西上委員、山崎委員、間山委員、原田委員、鎌倉委員

(2) 市側 6人

平井部長、福室参事、近藤補佐、一瀬上級主査、緒方主査、浅野主任

(3) 藤沢市市民活動推進センター 1人

関野センター長

4 議題

(1) 今年度の取組結果及び次年度の取組計画について

(2) 令和4年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画（案）について

(3) アンケート調査の実施結果について

5 開催概要

（事務局）委員会の開会前に、事務局より1点ご案内させていただきます。

藤沢青年会議所よりご参加いただいております委員につきまして、1月1日より島村委員から山崎委員へと変更になっております。皆様にご承知おきいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、山岡委員長、進行をどうぞよろしく願いいたします。

開会

（山岡委員長）ただいまから令和3年度第10回藤沢市市民活動推進委員会を開会いた

します。

まず初めに、委員会の成立状況のほか、傍聴者の状況などについて、事務局よりお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(1)「今年度の取組結果及び次年度の取組計画について」

○事務局より、今年度の取組結果及び次年度の取組計画について、説明が行われた。

(山岡委員長) この議題については、前回の委員会で提示いただいて、ご意見もいただいて、今ご説明のあった修正をされたということですので、確認ということかと思えます。

皆様のほうで、これについて確認したいこと、あるいはご質問等があればお願いいたします。——よろしいですかね。

以上で、議題(1)「今年度の取組結果及び次年度の取組計画について」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(2)「令和4年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画(案)について」

○事務局(市民活動推進センター)より、令和4年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画(案)について、説明が行われた。

(山岡委員長) ただいまの関野センター長からのご説明について、ご質問やご意見などはいかがでしょうか。資料が差しかえになっておりますので、お送りいただいたものをごらんいただいてということです。

(鎌倉委員) 些末な話ですけれども、古い資料で、(9)「市民活動に関する情報の収集及び発信に関する業務」の⑤「掲示板の管理」のeに、貼り出されているチラシ等の保存期間が5年間となっています。保存期間の規定があるのかもしれませんが、チラシの類いであれば5年間は長過ぎるのではないかと。今のセンターで保管するにも場所がなかなかないし、3年程度でいいのではないかと勝手に思っているのですが、いかがでしょうか。

(事務局・市民活動推進センター) 私はちょうどおっしゃる保存場所の近くにいるんですけれども、確かに棚がいっぱいなんです。掲示期間が過ぎたものは基本的に外して、そういった形でファイリングさせていただいていますが、保存期間は設定しているだけと言えば、設定しているだけです。ただ、雑誌等のバックナンバーならいいんですけど、

団体さんがなくなるとどこも保存していないものになってしまうので、こちらとしても廃棄はなかなか悩みどころになりがちな部分でもございます。今まで、正直、廃棄もしているんですけども、団体さん自体がなくなったところをどこまで廃棄できるかですね。5年間という区切りがあるので、ある種、捨てる踏ん切りがつくんですが。

短くするのも一つの方法なんですけれども、今の整理としては、団体登録が抹消されて、かつ、その後5年間、何も音さたがないところのファイルを廃棄するという手法を現在とっています。ご提案いただいた内容的には、期間を短くする検討はできるかなというところと、廃棄することで、ぎりぎり満タンの状況で継続できているという現状となっております。情報関連の職員とも相談してみますけど、今これで困っているかどうかを含めて確認させていただきます。

(原田委員)「2022(令和4)年度の重点取り組み目標」のところです。

「以下の2点を念頭に置いた事業展開を進めます」とあって、1「ウィズコロナ・ポストコロナに合わせた支援のあり方を確立する」(旧資料)とあります。ネットやICTを使えない方に支援していく、そのあたりはそのとおりで、やっていただきたいところではあるんですが、リモートなのか直接なのかということ以外に、例えば、ウィズコロナになりつつあるとは思いますが、この社会の中でどのような支援のあり方を考えていらっしゃるのか、もうちょっと具体的に聞かせていただきたいなと思います。

それと、1、2の上を書いてある「次のフェーズにおけるコロナ対応や社会経済上の活動が、徐々に検討されてきています」、これはまさに市民活動も同じ状況だと思うんです。「多くの人がつながりの欠如を感じている中、市民活動がその受け皿とされるような動きも必要になってきます」とあります。市民活動推進センターとして、ウィズコロナの世の中で必要とされる市民活動はどのようなものだと思っていて、どういう支援を考えていらっしゃるか。そのあたりをお聞かせいただきたいです。

(事務局・市民活動推進センター) まず、ウィズコロナ・ポストコロナに合わせた支援について、オンラインかどうかだけなのかという点につきましては、そこが最優先かなとまずは考えております。というのも、調査研究の結果を含めまして、やれている団体さんとやれてない団体さんの差が広がっていると、このコロナの期間で感じております。

情報発信関連の講座は、うちでは「マネジメント講座」と「ITサポート講座」という形で分けています。ITサポート講座については、このところずっと基礎講座に近

い内容を実施しております。これ以上の継続をうちがすべきかという問題にもなってくるんですけども、同じような種類の団体さんで、去年も受けたなと思うところが受けたりとか、結局、基本的なデジタルディバイドの解消が年を経てもなかなか進展しないという実感があります。

コロナ禍の中では、内部向けの文書作成だけやっている分にはいいんですけども、場所がないと継続できないという前提でいる団体さんは活動がとまっちゃっているのを見てきました。そういった状況を踏まえると、基本的にはオンライン化は最優先課題かなと考えております。

それ以外の支援ですと、講座を前提にすると見えてこないかもしれませんが、この2年間で言っても、そういうことをどこでやっているかという、個別相談なんです。逆に言うと、団体さんのほうから持ち込んでいただかなければ、その対応もなかなか難しい。個別相談で、例えば給付金の申請支援をしたり、運営そのものの見直しといったことのご相談には乗ってまいりました。施設としてやっていることと、私ども指定管理団体のほうでやっていることがあります。指定管理団体のほうでは、団体運営の見直しみたいところを神奈川県基金 21 で、ここ2年実施してまいりました。そこら辺の対応で、団体運営の内部評価の仕組みと伴走支援という形です。

どうしてもというお話をすると、そこら辺のことはご相談と同じで、特定の団体さんという支援になりがちなのは確かです。なので、ご相談とか指定管理団体の動きを含めて、団体さんのほうで改善の意思があるところにはそういった支援をしています。

(原田委員) この後のアンケートのほうにも、「市民活動団体の活動状況調査報告書」とかにもあるんですけども、市民活動推進センターをどのような目的で利用しているかという、会議とか打ち合わせとかコピーとかがすごく多くて、講座とか運営相談が比較的少ないなと思ってしまいます。

さっきもおっしゃったように、待っていると必要なところしか来なくて、アンケートの中で、市民活動に関する情報提供や情報発信が少ないというのが、市民の方からすごく多いですね。貸館業務はおいておいたとして、ボランティアとか市民活動に参加したいけれど情報発信が足りないと思っている人たちに向けても何らかのやれることがあるのではないかと。そういうことも含めて活動していただけたらと思うんですけど、いかがでしょう。

(事務局・市民活動推進センター) まず、登録を継続する団体さんの理由としては、場所

を使いたい団体さんが多くいるというのがアンケートにもあらわれがちという点はございます。ただ、おっしゃるとおりで、相談したくなる体制もつくらなければいけないですし、その点については、計画書に出していないというか検討中ですが、動画を含めて、相談しやすいように、うち自身の発信も改善しなきゃいけないかなと考えております。

あと、後半の部分の社会的孤立に関する考え方ですね。私どもの立ち位置でできることという話になると、団体さん自身の運営改善のお手伝いとか、つながりのお手伝いというところに、どうしても積極的に手を出せることが偏ってくるのが現実的な部分かなと考えております。

ただ、うちとしては直接手出し、手出しと言う言い方は悪いですが、直接的な活動をうちがする立ち位置ではなくて、そもそも団体さんの活動のしやすさとか、活動の価値を、ある種、事業等の取り扱いで周知するお手伝い等ができればというところがメインになってきます。そういった意味で、今年度はそこを交流機会等で中心的にやればというところまでだと、こちらとしても不十分かなと思っております。

結局、これもかという話になってきますけど、個別に当たるのがすごく大事だと考えております。例としては、3月6日にSDGsの講座をやったんですけども、そこで事例発表していただいたのがフードバンクふじさわさんです。お話の中で出てきたのが、例えば、フードバンクで受け取っていた方がコロナにかかってしまって受け取りにも来られないところをサポートしている。

そういう事例はあるんですけども、その講座には、無印良品さんとか大島薬局さんとか、地域をちゃんと見ている企業の方がかなり参加してきました。そこら辺の方から今ご相談を受けていて、支援の仕方をお話しする機会を今後つくる予定になっています。団体さんとそのままただつなぐのか、団体さん同士のつながりをつくってそこに支援していただくのかというのは、お話ししてからじゃないとというところがあります。

こういう形で、個別のお申し出から支援につながっているところまでが、うちの手に届く範囲かなと考えております。

(原田委員) 新たな団体を一緒につくり出すとか、一緒に後押しして立ち上げたい人を応援するというのもできるのではないかと期待していますので、よろしくお願いします。

(山岡委員長) コロナ感染がまだ続く状況ですので、現場の支援においては、コロナ感染に対応した支援に注力することが必要だということが、この事業計画の中からすごく読

み取れます。他方で、原田委員からもご意見があったように、アンケートから読み取れる部分を酌み取って、一步踏み込んでというか、今回のアンケートのほうでも、コロナをきっかけに市民活動をしたいという人が1割ですけどいるというのは、チャンスという見方もあります。

現場のご支援は大変だと思うんですけど、そういうことも考慮して、事業計画に沿って進めていただければと思います。

以上で、議題（2）「令和4年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画（案）について」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

（3）「アンケート調査の実施結果について」

○事務局（市民自治推進課／市民活動推進センター）より、アンケート調査の実施結果について、説明が行われた。

（山岡委員長）それでは、ただいまの事務局の二つの調査結果報告について、ご質問やご意見など、いかがでしょうか。

（坂井副委員長）大変興味深くお話を伺いました。

両方あるんですけども、市民へのアンケートの資料3-1のほうです。

これは毎年やって、年々の変化を比較できるというのは、いいところの一つではあるのですが、市民活動をどう盛んにしていくかの作戦を練る意味では、もう一工夫してもいいかもしれないと思いました。

例えばですけども、市民活動への参加意向を聞いています。「はい」、「いいえ」、「無回答」とあるのですが、これは全員に聞いているのですよね。ですから、市民活動をやっている人も、やっていない人にも聞いているということかと思うのです。

この「はい」と答えた人、市民活動をやりたいという人の中には、もう既にやっている人と、やっていないんだけどやってみたいという人が両方入っていると私は受け取ったのです。じゃ、やっていないんだけどやりたいという人、その人は何でやっていないのかなと絞り込んでいく。それを難しくしている理由をほかに聞いていましたけど、そこをクロス集計みたいなことができるのか。そうすると、そういう人たち向けに、どこを中心に施策を組めば、一番効果的かということがわかってくるような気がしたのです。そういう視点で、このすごく貴重な資料がいろいろあるのをうまく組み合わせると、これからの取り組みの具体的なヒントが浮かび上がってくるのかな。ただ効果を数字の変

化で見るだけじゃなくてね。そういう気がちょっとしました。それが一つ。

それから、市民活動の妨げになっているものは何かという設問も全員に聞いているわけです。さっきと同じような話になるんですけども、一つは、どういう状態の人が何を考えているのかというところのリンクですね。

それと、絶対的な障害なのか、相対的な障害なのかというのも、ちょっと気になります。例えば、忙しくて、それどころじゃないと言っている人は、どういう条件があろうとできないよねということに、きつとなっちゃうんですね。だけど、忙しい人にも、こういう活動があるんですよというのを紹介するやり方が、もしかしたらあるかもしれない。そういうことがちょっとわからないなと思ったのです。複数選択可だから、しようがないんですけども、例えばこれはこれが一番難しいことなんだよということ、こういうこともあるかなということ、少し優先づけをしたマルのつけ方ですね。順番をつけて見てもらうとか、そういうことはどうなのかな。分析が難しくなっちゃうのかもしれないんですけど、そうなったらどうなるのかにちょっと興味がある。それは一例なんですけど、そういうふうに、クロス集計とか、本当のことがわかってくるような設問の仕方があるかもしれないと思いました。

それから、資料4、市民活動の調査のほうです。

これも興味深いなと思ったんですけども、最初に資料2でご説明のあった取り組み目標を少し意識したつくりにしたらどうかなと思ったのです。そこに1と2、二つの取り組み目標があって、ウィズコロナ・ポストコロナの関係は、いろんな項目をそれなりに聞いているなと思ったんですけども、2番目の「つながれる場づくり」に関しては、施策につながる設問はあまりないんじゃないかなと思ったのです。

問 20、ほかの団体と連携していますかと聞いているところがあります。これは連携している、していないだけを聞いているんですけども、例えば連携したと答えた団体には、どういうきっかけで連携したのかとか、そこから先を少し聞いてみる。連携したことがないという団体だったら、何で連携しないのかと。それは必要がないと思っている、あるいはどういうところが連携先にふさわしいのかわからないとか、面識がないからアプローチしづらいんだとか、いろいろあるかもしれません。そういうことがわかってくると、じゃ、どういう場づくりをしていったらいいのかということにつながってくるんじゃないかなとちょっと思ったのです。

それから、これは市民活動の範疇を超えちゃうんですけど、例えば問 20 で言うと、

連携先が「地縁団体」とか「地域団体」とかというのがある。これは、このアンケートでは調査対象外の団体と理解していいですか。多分そうなんだろうなと思うんです。もしそうだとすると、その連携した先の団体では、そういうニーズを感じているのかどうかというのがちょっと気になったのです。お互いに相思相愛だったら、うまく場をつくれば、すぐどどんいきそうだなと思うし、相手はあまりそう思っていないという、かなりの工夫が必要だろうと思うのです。ですから、そちらの所管で何か調査していることがあるのであれば、調査項目の中に、こちらの裏返しじゃないですが、そういうものを入れて聞いてみるとかいったことがあってもいいかもしれない。

感想めいたことになりました。細かく言うといっぱいあるのですが、そういったことをちょっと感じましたので、申し上げておきます。

(山岡委員長) 調査結果ですので、ぜひそういうことも含めておっしゃっていただければと思います。

今の坂井副委員長のご発言について、事務局から何かあれば、お願いします。

(事務局) 今回、今の計画の中間見直しというところで、どうしても前回の調査結果と比較したい部分がございます、調査票の修正にはちょっと限界があったところもございます。

ただ、坂井副委員長ご指摘のとおり、課題の本質を深掘りする、表出されるという意味では、ご指摘の内容を設問でしっかり組み立てるとするのは大事だと思っておりますので、今後の参考にさせていただきたいと思っております。

また、市民活動に参加することの妨げとなることという部分で、相対的な理由もこの中にももちろんあると思うんですけど、その中でも、やはり私どもとしては、活動内容がわからないという部分については、速やかに手を打てる課題の一つではないかなと思っております。先ほど推進センターの関野センター長から、情報発信ツールの多様化というご説明もありましたけれども、やはり活動内容がわからないまま、それが参加することへの妨げになっている部分は、私どもの工夫の足りなさなり、努力不足みたいな部分もあるのかなと思っております。そういった部分には積極的にアプローチをしていかなければいけないなと感じたところでございます。

(坂井副委員長) 参考にさせていただいて、今後検討していただければと思います。

(事務局・市民活動推進センター) 協働についての設問を今回追加いたしました。実はこれは初めてではなくて、今回コロナが影響した部分で、2017年の内容に似た追加を

しているんです。ボリュームで言うと、10 問ぐらいあります。10 問の中にも複数あるのですけれども。なので、単独でやるというよりは、先ほどご説明させていただいた 2022 年度の調査で、今のところ団体の情報発信能力とかで検討しているのですが、まだ確定させてはいないので、今回ご意見をいただいたのを受けて再度検討してみます。もしかしたら、情報のほうが重要という話になるかもしれませんが、一旦持ち帰って検討させていただきます。

(阿部委員) 既に一瀬さんからも答えがあったと思うんですけれども、この推進でのところで一番問題になっているのは、市民活動をする人がふえないということなんです。それが一番問題なんです。アンケート結果を見ても、今まで出ていますように、活動内容がわからないと言われているわけです。ここを攻めないで、何でほかのことばかり攻めるんだろう。ここが一番重要だと思っています。

例えば、アンケートをとるんだったら、ことしはこれだけ PR してみました、テレビを活用してみました、内容がわからないという人がこれだけふえましたというならわかるんですけど、何の施策をしたからどう上がったというのが全然見えてこない。とにかくやっぱり一番大事なのは、これまで活動してこなかった人にどうアプローチをしていくか、どう宣伝していくか、どういう活動団体があるかを PR することだと思っています。原田さんもおっしゃっていました。坂井さんも周りからおっしゃっていますけれども、内容の一番肝心なところはそこだと思うんです。そののところがどうするかということがほとんど書かれていない。

推進センターはよくやっぴらっしゃると思うんですけれども、推進センターは、来てくださったお客様をどう大事にするかということを考えていて、来てくださる方をどうふやすかということに資料はほとんど触れられていない。IT をしますよということじゃなくて、IT の何をやるか。動画配信をしていくのか、メールで配っていくのか。NPO カフェというすばらしいツールもあるんですけど、あそこは文字情報ばかりで、どういう活動、どんなことをやったかという写真も何もない。「ボランティア」という雑誌がありますが、その内容が NPO カフェで見られるぐらいのことをしないと、皆さんに伝わらないんじゃないかと思っています。「ボランティア」という雑誌をもっとどう配っていくか。それから、ミライカナエルというものをもっと広報、PR していく。そういう活動が全然足りないのではないかと思っております。

(西上委員) それに関連して、情報発信のところなんですけど、困っている人を支援した

いという気持ちの人が 40%ぐらいいて、さらに女性の回答が多い。40代から70代の女性が多いわけです。そこまではセグメントされているので、じゃ、女性目線の40～70代への情報発信はどうしたらいいんだろうというのをまず考えてほしいのと、その世代の人たちが、SNSを頻繁に見る時間があったりとかするはずなので、それは一体何時ぐらいで、何のSNSを見ているんだろうとか、そういうことを次に分析されると、ちゃんとそこに届く発信になると思います。

そのSNSの発信と、あとはやっぱり地域へのポスティングみたいなもの。市内の全戸にポスティングするのは大変だと思うので、もし回答されているエリアがわかるんだとしたら、実験的にそのエリアに対してポスティングするとかということも有効だと思うんですね。

よく介護業界で働く人がなかなかふえないという問題があります。でも、女性で、子育てとかが終わって、これから働きたいと思っている人たちは必ず地域に一定数いて、徒歩圏内もしくは自転車で行ける圏内に、介護施設で働く人のポスティングをすると、応募が120%とかになるんです。子連れ出勤できますと言うと、すごい数の応募が来るんですね。ニーズにぴたっと合って、すぐ行ける場所だと思うと、来てくれる方はとてもふえるはずなので、少しエリアを区切ってでも発信して、参加者がどうふえるのかということを実験してみてもいいんじゃないかなと思います。

このアンケート結果はすごくすばらしい。藤沢市らしいなと思って拝見していたんですけど、無作為でやって、困っている人を支援したい人が40%いるって、なかなかないと思う。普通はもっと低いはずなんです。だけど、これだけいるということが、すごいなと思う。

あと、自己啓発やみずからの成長にこういう機会を使いたいという人は、社会貢献活動はあまりしないのですよね。一番多く回答している。だけど、誰かを助けたいと思っている人たちがこれだけいるということを、このアンケートの結果のいいところに着目して、ちゃんと生かす。悪い結果をよくするのは難しいんです。今あるいい結果に着目するというのが、コロナ禍ですごく大事なポイントじゃないかなと思っています。

もう一つ、動物園とか水族館とか、市民が来れる場所で、コロナ禍でクローズしたところがいっぱいありますよね。そういうところって、SNSを調べてもらったらわかるんですけど、飼育員とかの人たちが、動画とかもやったことないのに、アザラシの短い動画とか、虫の動画とか、いろんな種類の動画を毎日上げまくったのです。みんな動物

園へ来れないからね。そうすると、毎日上げまくる中にバズる動画が必ず出てくるのです。バズるといのは、反響がある、「いいね」を何百万人が押してくれましたみたいな動画ですけど、あれって、プロがつくるから「いいね」がいっぱい集まるわけじゃなくて、毎日コツコツと投稿するから、バズるんです。今、YouTuber で有名になっている人たちも、10年前ぐらいの、YouTube が始まったときからほぼ毎日投稿して、有名になっているだけなんです。あれは続けているからそうなっているだけ。

市民は情報がわからないといっぱい言っていますけど、これからこれをやりますよ、こんなことをやりましたよという、やります動画、やりました動画を行政職員が毎日、5秒の動画でも10秒の動画でもいいから、コツコツ上げると、バズるんですよ。デザインとかサイトとかもちろんあるんですけど、毎日コツコツ上げる。特に上げてほしいのは、やります動画です。これからやります、今準備しています、もうちょっとで始まります。そういうやります動画を徹底的に上げると、参加する人は飛躍的にふえていくと思います。

すごく身近にできることばかりだと思いますので、このアンケートの結果のいいところに着目して、できることからぜひやっていただきたいなと思って今、結果を見ていました。

もう一つ、寄付も、情報発信すると、ちゃんと集まるんです。寄付って、集めるパーティーがある。パーティーって、別に飲食するわけじゃなくて、寄付を募るパーティーが結構いろんなところでされているんです。それをやってみてもいいと思うんです。ちゃんとすてきな雰囲気かどうか、行きたくなるような雰囲気、寄付を集めるパーティーみたいなこともやる。寄付も意外といい感じで、反響がありそうな結果になっているので、寄付のところに対しても何かできるといいのではないかなと思いました。

(原田委員) 新型コロナウイルスの影響をきっかけに、地域活動、市民活動に参加したいと思うかというのが12.3%しかないような感じもしますが、新たにやりたいという人が、このアンケートに答えた中で12.3%もいるんだなと思うんですね。今の西上さんの話じゃないですけども、こういう方にピンポイントに情報発信なんかもできるんじゃないかと思うので、お願いしたいと思います。

(山岡委員長) 今のご提案というか、この結果を踏まえてのご意見だと思うんですけど、事務局のほうで何かありますでしょうか。

(事務局) このアンケート調査からも、必要な情報をどこにしっかりお届けするかという

部分、小回りみたいなものは、行政はもちろん難しい分野ではあるのですが、知っていただく工夫の一つとして、地区別のクロス集計、さっき西上委員からも、どこかエリアを区切ってというご提案がありました。今、藤沢市の公式LINEは大体9万人弱ぐらいですかね、登録をさせていただいている方々がいらっしゃるのですが、登録されている地区別に、セグメント配信という形で情報発信することが可能です。行政側から〇〇地区の情報が欲しいというチェックをつけた方々に対して直接送るということも一応できることになっていますので、今、お話を伺う限り、そういった部分も少し工夫をすればアプローチできるかなと考えた次第でございます。

本日いただいたご意見を踏まえて、いろんな工夫をしていきたいと考えております。(阿部委員) 先ほども申し上げましたけれども、ミライカナエル活動サポート事業は、宣伝がすごくいいポイントだと思うんです。これを募集活動にうまく使う。その資金をうまく活用している人を紹介する。これを何とかうまく発信できないかと思っております。いかがでしょうか。

(事務局) ミライカナエル事業は、広報等でもしっかり周知してまいりたいと考えておりますし、一方で、採択されて、補助金を受けた方々のその後の追跡も大事だと認識しております。それをどのような形で市民の方々にお伝えするかは、いろんな工夫が必要だと思いますけれども、事業の展開といたしましては、そういったことも今、考えているところでございます。

(山岡委員長) ほかに、すごくいろいろな情報がある調査結果で、ご意見とか考察とかもできるかと思っておりますけれども、委員会の時間も限られておりますので、この議題については一旦この辺でということにして、また委員の皆さんからご発言いただいたようなご意見等あれば、事務局に、先ほど阿部委員からメールでということがありましたけれども、お寄せいただくということによろしいですか。

(事務局) この後もぜひお寄せいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(山岡委員長) それでは、この議題(3)「アンケート調査の実施結果について」を終了したいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(4) その他

(山岡委員長) 最後に、議題(4)「その他」について、事務局よりお願いいたします。

(事務局・福室課長) 本日は丁寧なご審議、また、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。今後に生かしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、議題の(4)「その他」でございます。

ご承知のとおり、第10期の委員の皆様は本日が最後の委員会となります。そこで、お一人ずつご挨拶を頂戴したいと思いますが、大変恐縮ながら、お時間に限りがございますので、お一人1分程度でお願いできればと思います。

初めに、林委員から、よろしくお願いいたします。

(林委員) 皆様、2年間ありがとうございました。2年前、ちょうどセンター長が交代のタイミングでしたので、支援施設から私が参加させていただくことになりましたけれども、来年も関野がセンター長を続けますので、いろいろな人がかかわるということも含めて交代したいと思います。

2年間、コロナ一色だったなというのが正直な感想なんですけれども、私たちだけで考えるんじゃなくて、この場で皆様と一緒に考えさせていただくことで、いろんな考えが至り、比較的早い対応ができたかなと思っています。

今後、地域あるいは一般市民の方を広くつなげるチャンネルを拡大しないと、いい情報も伝わっていかないかなと思いますので、そういうところを頑張って。個人的には、今度は六会地区の郷土づくり推進会議に参加をさせていただきますので、いろんな地域に行って、この施設のことを伝えていくということをやっていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(樋口委員) 宝の山のようなアンケートを最後の回で読ませていただきまして、ありがとうございます。こういうものを基盤に、2年間で学んだこと、いろんな意見を聞かせていただいたことを踏まえていきます。社会福祉協議会も、ふじさわボランティアセンターという、福祉を主体としたボランティアを支援するセンターがあります。今後市民活動推進センターの皆さんとの協働であるとか地域活動であるとか、いろんな裾野の基盤のところを主体に取り組んでいけるようにしたいと思っています。ありがとうございました。

(山崎委員) 最後の回で「はじめまして」になってしまうんですけれども、私は一般社団法人藤沢青年会議所の副理事長をしております山崎と申します。最後の回に参加させていただきまして、もろもろ内容が把握できていなかったのですが、藤沢青年会議

所として、これからもしっかりと委員会に参加させていただきまして、活動していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(間山委員) 2年間どうもありがとうございました。地元金融機関ということで参加させていただいて、どれだけお力になれたか、非常に難しいところだったのですが、個人的には、行政の方ですとか地域の方がいろいろなことを考えられていて、非常に勉強になった次第です。地域金融機関ですので、これからもご協力できることがあれば何なりとご協力させていただきます。ご相談があれば気軽におっしゃっていただければと思います。

(阿部委員) 長い間ありがとうございました。言いたいこと言いまして、失礼いたしました。

私は生涯学習といいますか、社会教育のほうから出ておりましたけれども、もっと公民館と近づけたかった。私のやっている生涯活動は、市民活動にもものすごく近い部分だったのです。それで、もう少し公民館と活動推進センターあたりが仲よく、協働の事業ができないかなと思ったのですが、そのところの力及ばず、失礼いたしました。今後とも公民館ともっと協力して、この市民活動を推進していただきたいと思っております。

(木村委員) 2年間どうもありがとうございました。お役に立てたかどうかというところが残りますけれども、今後は一市民として、この市民活動に参加できるような、そんな状況をぜひつくっていただけたらと思っております。まずは手始めに、先ほども広報のお話ありがとうございましたけれども、40代、50代をターゲットにした講座等も開催されるようですので、そういった情報がしっかりと私のもとに届けていただける、そんな広報活動に期待をしたいと思います。今度はプレーヤーとして皆様からご指導を賜ればと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(細沼委員) 皆様、2年間ありがとうございました。また、交代される方、この会議がほとんどZoomということで、最後ぐらいは皆さんで対面してご挨拶したかったなど、きょう感じました。私も、今後もこの会議で意見を言いながら、また、藤沢市民としても活動していきたいなと思っています。

(西上委員) 2年間、いろんな市民活動の発表とか提案とかを聞いて、とても勇気づけられることが多かったです。藤沢市目線の意見がたくさんありましたし、基本的には皆さん、応援するという姿勢で、いろんなディスカッションができたというのが、すごくよ

かったなと思います。こういう話し合いができたり、結果によって市民活動が進んだり、応援されたりということのをこれからもぜひ続けていきたいと思っています。

(鎌倉委員) サラリーマン生活を終えてすぐに地域貢献をしたいということで応募したわけですが、仲間に加えていただいて、非常にうれしく思っております。果たしてこの2年間、貢献ができたかは疑問ですが、私にとっては、非常に貴重な経験をさせていただいて、ありがたく思っております。

きょうの推進計画にも出ていましたけれども、幸い、明治地区の郷土づくり推進委員に選んでいただけそうなので、この経験を生かして、さらに地域に貢献していきたいと思っております。ありがとうございました。

(原田委員) 2年間どうもありがとうございました。いつも歯にきぬ着せぬで申しわけありませんでした。というのも、私は90になる両親と義理の母の介護にかかわっています。あと、地域医療の仕事を始めたことで、超高齢化社会で、これから先どうなっていくのかなとすごく不安に思っています。介護の専門家とか、医療関係者だけではいかんともしがたい事態になるので、市民活動であったり、地域のつながりを構築していかないと、私たちが老後になるとき、とんでもないことになるんじゃないかと思っています。今後も藤沢市と市民活動推進センターの皆さんには頑張っていたいただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(坂井副委員長) この推進委員会にかかわらせていただいて、藤沢という場所は地域愛に満ちた、市民活動のポテンシャルの高い地域だなということを実感しています。

副委員長としてどれだけお役に立てたかというのはちょっと疑問かなというところもありますが、皆さんのいろんな意見、いろんな活動に接して、大変勉強になりました。自分自身も、NPO団体の運営をしておりますので、そういったところにも十分反映させていただきながら、引き続き藤沢の市民活動のためにできたらなと思っております。ありがとうございました。

(山岡委員長) 2年間どうもありがとうございました。拙い委員長だったのですけれども、議事進行にご協力をいただいたことに感謝申し上げます。皆さんから、きょうもそうですけど、活発にご意見を下さるので、私はただ「いかがでしょうか」とかと言っているだけで済んじゃう。それはそれでまずいんですけど。そういう意味で、楽をさせてもらいました。

ことはコロナ禍の2年目ということと、もう一つは、ミライカナエルがスタートし

て、協働事業のほうもスタートして、本格的に動き出すというところだった。その中で、課題もまだあるなという感じですので、こういう制約があって、市民活動にとって難しい状況の中で、市民活動だけじゃないんですけれども、これを藤沢市とどう進めていくかということは、引き続き考えていかなければならないと思います。そういう意味で、できることをこの委員会で、しっかりやってこれたかどうかはわからないんですけど、引き続きやっていかなきゃいけないなと思っております。

特に、今限りで退任の委員の皆様におかれましては、本当にお疲れさまでした。どうもありがとうございました。

(事務局・福室課長) 皆様、2年間本当にありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。

それでは、最後に市民自治部長の平井よりご挨拶を申し上げます。

(事務局・平井部長) 本日皆様のご発言を聞いていまして、途中で終わってしまうのがもったいないと感じました。私自身たいへん勉強になりました。行政と言うと、フットワークがちょっと遅いですとか、発想をもっと柔軟にですとか、そういうことをつくづく感じるようなご意見をいただいたと思っています。

今回、最後の委員会ということで、任期中の2年間は新型コロナウイルス対策として、Web 会議システムを活用した委員会の開催など、運営面でご負担をおかけする中、柔軟なご対応並びにさまざまな視点からのご議論をいただきました。また、会議の進行に当たりまして、スムーズな進行を心がけていただきまして、山岡委員長、坂井副委員長をはじめ、各委員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

また、委員会では、主にミライカナエル活動サポート事業にかかる審査選考や市民活動推進計画にかかる進捗管理、市民活動支援施設の運営などに関することをご審議いただいたところでございます。特に、ミライカナエル活動サポート事業につきましては、それまで実施してきました二つの事業の見直し、リニューアルしての最初の審査選考から進行管理などを担っていただく中で、市民活動団体の成長支援に当たりまして、多くの貴重なご意見をいただきながら、着実な事業の推進にお力添えをいただきました。ありがとうございました。

次年度以降の動きといたしましては、引き続きミライカナエル活動サポート事業の取り組みを進めるほか、市民活動推進計画の中間見直しを予定するとともに、新たな視点といたしましては、東京 2020 オリンピックを契機として、ボランティア活動をレガシ

一としたチームFUJISAWA2020を市民自治推進課が受け継ぎまして、地域活動との融合を検討していかなければならない。

もう一つ、議論の中でもデジタル化の関係が出ておりましたけれども、デジタル社会の進展の中で、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進のもと、ICTなどのデジタル技術の利活用を自治会、町内会活動や地域活動に今度は浸透させていくということなどがございまして、新たな担い手の発掘や協働、地域活動のあり方などの検討を進めていかなければならないなと思っています。

本日、第10期の市民活動推進委員会が終了となりますが、引き続きさまざまな場面で地域活動の推進にご助言、お力添えをいただければと強く思うところでありますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

以上、ご挨拶とさせていただきます。2年間、どうもありがとうございました。
(事務局・福室課長) 事務局からは以上となります。

(山岡委員長) それでは、これで本日及び今年度の日程が全て終了となります。

以上をもちまして、第10回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

午後7時44分 閉会